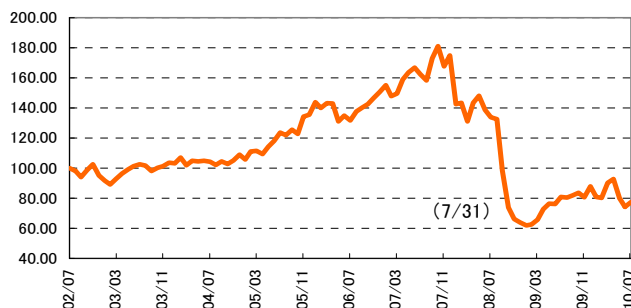


2010年7月末

# グローバル株式型

主に世界各国の株式に分散投資することによって、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。  
 MSCI WORLDインデックス(注)を上回る投資成果を目指します。  
 (注) MSCI WORLDインデックスとは、MSCI Inc.が提供する指数で、日本を含む主要各国の株式を包括的に表した指数です。

## ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点「100」として数値化したものです。

## ユニット・プライスの収益率

収益率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
グローバル株式型	4.16%	▲16.51%	▲4.38%	▲4.29%	▲52.30%	▲37.36%	▲22.66%
グローバル株式型 ※保険関係費用 控除前	4.30%	▲16.10%	▲3.58%	▲2.69%	▲47.49%	▲29.36%	▲9.85%

## 特別勘定資産内訳

	金額(百万円)	構成比(%)
現金	48	0.5
預金	10,041	99.5
投資		
債権		
その他		
信託		
合計	10,090	100.0

# グローバル成長株ファンド

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル成長株ファンド	4.32%	▲16.25%	▲3.64%	▲2.77%	▲50.17%	▲14.92%
MSCI ワールドインデックス	5.48%	▲13.94%	▲3.43%	▲1.37%	▲47.42%	▲11.83%

\*当ファンドの設定日は2001年10月2日です。

### <株式組入上位5ヵ国>

1	アメリカ	49.0%
2	イギリス	10.9%
3	日本	5.5%
4	ドイツ	5.4%
5	香港	4.7%

### <株式組入上位10銘柄(銘柄数79)>

	銘柄	通貨	業種	比率
1	APPLE INC	アメリカドル	コンピューター	3.1%
2	ORACLE CORP	アメリカドル	ソフトウェア	2.6%
3	CISCO SYSTEMS INC	アメリカドル	通信	2.5%
4	DAIMLER AG-REG	ユーロ	自動車 製造	2.0%
5	EMC CORP	アメリカドル	コンピューター	1.8%
6	STANDARD CHARTERED PLC	イギリスポンド	銀行	1.8%
7	INGERSOLL-RAND PLC	アメリカドル	その他製造	1.7%
8	GENERAL ELECTRIC COMPANY	アメリカドル	その他製造	1.6%
9	LOWE'S COS INC	アメリカドル	小売り	1.5%
10	UBS AG-REGISTERED	スイスフラン	銀行	1.5%

### <資産構成比>

1	国内株式(先物含む)	5.4%
2	外国株式(先物含む)	90.5%
3	CB	0.0%
4	公社債	0.0%
5	現金その他	4.1%

## <運用コメント>

米国市場は、月初、国内景気の減速を示唆する内容の経済指標が相次いだことなどから、軟調に始まりました。しかし中旬にかけては、企業業績の改善期待が高まったことから上昇基調となりました。その後、一部経済指標の下振れなどが嫌気され反落する局面もありましたが、月末にかけては、好調な企業決算や底堅い住宅関連指数の発表などが好感され、上昇基調で推移しました。欧州市場は、米国と中国における景況感悪化などに圧迫されて軟調に始まりました。その後、欧州金融機関へのストレステスト(健全性審査)が無難な結果になるとの見方が広がるなか、上昇基調に転じました。中旬に入ると米国市場の動向などを受け軟調となる局面もありましたが、月末にかけては、底堅い経済指標が相次いだほか、欧米主要企業の業績改善などが支援材料となり、上昇基調で推移しました。

このようななか、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、一般消費財・サービスセクターの銘柄などを積み増した一方、ヘルスケアセクターの銘柄などを一部売却しました。一般消費財・サービスセクターでは、カジノ・ホテル経営会社を新たに組み入れました。同社は、シンガポールでは新しいカジノ市場の急速な成長と拡大持続から恩恵を受けると見えています。また、ドイツの大手自動車メーカーを買増しました。同社は、トラックと乗用車に対する予想を上回る需要と利益率の向上から利益見通しの上方修正が続き、着実な成長が見込まれます。ヘルスケアセクターでは、主たる成長の原動力である肺がん治療薬の売上見通しに懸念が広がった、スイスの製薬大手を売却しました。

7月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービス、対してアンダーウェイトとしているのは金融、生活必需品、ヘルスケアです。

今後も銘柄選定ならびにセクター選定を重視し、世界のリーディングカンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっています。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

当資料に関する「ご注意いただきたい事項—大切なことから」を5/5ページに掲載していますので必ずご参照ください。

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。